

會 議 錄

会議の名称	令和４年度　第１回協働推進懇話会
開催日時	令和４年１１月２日（水）１４：３０～１６：３０
開催場所	和光市役所５階　５０３会議室
出席者	《委員》　　　　　　　◎会長　○副会長 ■学識経験者 ◎杉崎　和久　（法政大学法学部政治学科 大学院公共政策研究科　教授） ■市民団体を代表する者 山川　由美子（NPO 法人みんなで元気　代表理事） ■公共的団体を代表する者 加山　秀夫　（和光市自治会連合会） 富岡　俊宏　（和光市商工会） 塚本　拓　　（和光市社会福祉協議会） 片山　義久　（和光市ＰＴＡ・保護者会連合会） ■和光市協働推進ワーキング 漆間　美奈　（和光市政策課） 《事務局》 市民環境部次長　高橋 市民活動推進課　山本、橘
欠席者	■市民団体を代表する者 ○森田　圭子　（NPO 法人わこう子育てネットワーク　代表理事） ■和光市協働推進庁内調整委員会 大屋　ゆり奈（和光市政策課）

次 第	1 委嘱式・任命式 2 会長・副会長の選出 3 自己紹介 4 協働推進について 5 今年度のテーマについて 協働指針改定について 協働における活動スペースについて 6 その他
会 議 資 料	1 次第 2 令和４年度和光市協働推進懇話会委員 3 和光市の協働推進に係る調査研究報告書～令和３年度～ 4 和光市協働指針素案 5 第五次和光市総合振興計画基本構想２０２１～２０３０ 6 市民活動団体アンケート案 7 協働指針 今後のフロー 8 和光市協働推進懇話会設置要綱
傍 聴 者	１名

会議 内容
□市民環境部 高橋次長より開会挨拶 (高橋次長) 協働推進懇話会は、目まぐるしく変化する地域課題に的確に対応した、新たな市民活動支援の在り方や協働の進め方を委員の皆さまと一緒に調査研究し、市の協働推進に広く市民の意見を反映することを目的としている。持続可能な地域づくりを実現していくためには、市と市民の皆さまが協働し公共を支えていくことが必要であるため、今後のより良い地域活動や協働事業実施につながるよう忌憚なきご意見を頂戴したい。 《1 委嘱式・任命式》 委嘱式及び任命式は新型コロナウイルス感染防止対策のため割愛 《2 会長・副会長選出》 (事務局) 和光市協働推進懇話会設置要綱第5条規定により会長及び副会長の選出を行う。会長は委員の互選により、副会長は委員の中から会長の指名により選出する。 (片山委員) 杉崎委員は和光市において他の市民活動推進を図る会議でも議員を務められたり、他の自治体においても同様の委員をされていることから杉崎委員を推薦する。 (一同) 異議なし。 (事務局) 一同異議なしと認め、杉崎委員を会長に選出する。 □会長挨拶 (杉崎会長) 自由な議論ができると思うため、沢山皆さんに意見を出していただきたい。 □副会長指名 (杉崎会長) 副会長は経験豊富な森田委員を推薦する。

《3 自己紹介》

(進行：杉崎会長)

□各委員自己紹介

(杉崎会長)

和光市では市民参加推進会議を8年程務めている。また、地域デザイナー養成塾では企画にも携わった。前任の担当からは、具体的な市民活動、地域活動の議論ができるメンバーが揃っていると聞いている。前に進める議論を進めていきたい。

(山川委員)

『NPO 法人みんなで元気』代表で、介護予防の事業を行っている。10年前にNPOを立ち上げ、元気なシニアに様々なイベントを企画している。少しでも具体的な形になるように議論をしていきたい。

(加山委員)

和光市自治会連合会として参加。現在も新型コロナウイルスによりイベントは停滞気味である。自治会からの生の声を取り入れ発言していきたい。

(富岡委員)

和光市商工会の代表として参加。商工会は地域のイベントを行っているが個人的にも10年程市や個人のイベントをしている。その中での苦い思い出を活かし良い議論ができたと思う。和光市生まれ、和光市育ちで、良いまちにできたと思う。

(塚本委員)

社会福祉協議会に入り8年。和光市は地元ではないが、仕事をしながら和光市に関わってきた。幅の広い議論ができる場であると思う。会をとおり、縁が広がればと考えている。

(片山委員)

和光市PTA・保護者会連合会に所属し、新倉小学校PTA会長及び大和中学校PTA副会長を兼任している。今年3年ぶりに大和中学校のまつりを行う。今までは文化祭の延長のようなものだったが今年からは地域のまつりとして復活。地域の人も巻き込んでいくことを考えている。

(漆間委員)

和光市政策課にて市民参加の担当をしている。

《4 協働推進について》

(事務局)

□令和3年度調査研究報告書及び今年度事業について

《調査報告書より》

第1回会議にて『協働における課題』について議論の結果、令和3年度のテーマとしては、ハードとしての場所を含め既存の仕組み等を応援・サポートする、また何かしようとしたときや、今まで動かなかった人も気軽に集まることのできる場として『気軽に集まることのできる企画・仕組み・スペース～まずはみんながつながろう～』に会議後、決定した。

第2回では、テーマに沿った具体的なアイデア出しをワークショップ形式で実施し、多岐に渡る様々なアイデアが出た。その中でも得票点数の高かったアイデアについて、第3回では具体案を検討。路地や屋上等、『魅力を再発見する』というキーワードがまちづくりになることが明らかになった一方で、そのようなプロジェクトの過程において実際に人々が集まり、交流を深め、話し合いのできる使い勝手の良い場所づくりが必要ではないか、との結論に至った。

そのため、今後はコミュニケーションの拠点づくり、ハードとしての多世代・多文化交流のプラットフォーム創出という点についても積極的に進めていきたいと考えている。市役所6階の交流スペースにおいてもリニューアルを行い、多世代・多文化交流の場として、時代に合った新たな魅力を地域の方々と一緒に考え、作りあげていきたい。

□協働指針について

和光市協働指針について、2021年度から2030年度までの第五次総合振興計画に則った協働指針の改定を行っていく必要があり、委員の皆さまには指針改定へのご協力をお願いしたい。

□わこらぼまつりについて

市民活動のまつりである「みんなのわこらぼまつり」は、ステージ発表と市民活動マルシェ、緑の魅力発見エリアからなる、『協働』がテーマのおまつりであり、今年度は5月29日(日)に開催した。ステージ発表は『わこらぼフェス』と称し、市民、関係者等で組織されたプロジェクトチームで企画運営を主体的に実施、市民活動マルシェは事前説明会を実施し、当日は青空のもとテントを張り、日頃の活動発表やPR、横のつながりづくりの場となり、来場者は述べ2,000名となった。

来年度はプロジェクトチームのあり方を、まつり全体の実行委員として変革していく予定。来年度令和5年5月28日(日)開催予定である。

《5 今年度のテーマについて》

(事務局)

今年度は大きく2点について議論して頂きたい。

- 1、協働指針の改定
- 2、昨年度からの継続となる、プラットフォームづくりについて

□協働指針改定について

(事務局)

協働指針の改定については今までの協働指針と方針自体は変えず、一部修正を行いたい。資料『協働指針素案』は事務局が現在の指針に赤字訂正を加えたもので、主に大きく変更している点は2点ある。1点目は第五次和光市総合振興計画の文言へ全体的に訂正している点、2点目は、令和3年度にて、協働事業提案制度が終了となったため、文言を削除している点である。また、今回改めて「市民活動団体実態調査」を行う予定であり送付予定のアンケート案もご確認いただきたい。皆さまには協働指針素案、及びアンケート案の内容を確認いただき、現状にそぐわない部分や、または表現方法を変更した方が良い等、ご意見をいただきたい。今後のフローについても併せて確認いただきたい。協働指針改定版ができあがった後、概要版の作成を行いたいと考えている。概要版では、よりわかりやすく、手に取りやすい形のものを作成したい。

(杉崎会長)

大きな方針転換はないが、過去の協働指針改定時の会議にて『和光市らしさを表現したほうが良いのではないか』といった意見もあったと聞いている。本日結論を出す必要はなく、今回は頭出しとしての議論である。寧ろ大事なのは改定プロセスではないか。今後のスケジュールの紹介がされた。現在のアンケート案はわくらば登録団体、ボランティアセンターのみに質問をすることとなっているが、もっと広範囲にアンケートを行いたいという意見も聞いている。しかし予算があるわけではないため、大々的に行うというよりは出来る限りの範囲で進めていくことで実現性が高くなるのではないか。これらの改定の方法について意見をいただきたい。スケジュールだとアンケートをこれから行うことになっている。こんなことを聞いた方が良い、聞く必要がない、こんな人に聞いた方が良い等、アンケートに対する意見も伺いたい。

(塚本委員)

アンケートを早急に行う理由は何があるか。もう少しペースを緩めても良いのではないか。いつまでに変えなければならないという期限はあるか。

(事務局)

指針改定に伴い、まずは着手できるところから行っていきたいというところである。特に期限は設けていない。

(杉崎会長)

上位計画である総合振興計画が変更になっており早急に変えたいという思いがあるのではないかと。協働指針については大きな方向転換等の変更はないが、だからといってそのままが良いというわけではなく、状況が変化しているから反映をさせたほうが良い。

『協働事業提案制度』の部分が削除されているが、『協働の事業が増えた』と記載があることに違和感を感じる。また、協働事業提案制度部分を削除しているが、無くなったことに触れたほうが良いのではないかと。協働提案制度が無くなった経緯を知りたい。総括すべきである。

(片山委員)

協働事業提案制度について、大きな方向性を示すべきである。成果はあったが制度が無くなったことと、今後の体制を記載する方が良い。

(杉崎会長)

協働事業提案制度については総括として一節にまとめてほしいところである。

5～7ページが和光市らしさを表現する箇所であるがいかがか。

(山川委員)

協働指針には、年代について60～64歳の市民活動参加意向について記載はあるが、若い世代がどれくらい興味・関心を持っているかはどこかに記載されているか。記載が無い場合は記載した方が良いのではないかと。潜在的に活性化させたいと考えたときに、若い方がどう関わってきているかが見えてこない。

(杉崎会長)

高齢者が地域活動を行うことは時間的、経済的に余裕があり活動への参加が多いことは一般的だが、和光市は肌感覚だと比較的若い世代が活躍している印象があり、それが特徴かもしれない。データとして反映していない場合も、実際には市の事業も現役世代30～40代が積極的に参加しているということはいえる。第五次総合振興計画を作成したときも、100年会議等で若者が多かった印象である。和光市の協働に対して皆さんがどう思っているかを捉えないといけない。2章は世代内容やグラフを入れたり、大きく書き

換えたほうが良い。6 ページ『課題』については現状に合ったものに変えるべきである。次回は2 章中心に文章を考えることにする。また現状の課題を整理をしなければいけない。

委員の皆さんへは次回会議前にメールで案を送り、事前に確認いただいた上で当日話し合いをしたい。

(塚本委員)

第2 章は平成1 9 年当時のものなのか、直近のものなのかかわかると変化がみえる。

(片山委員)

過去のデザイナー養成塾等、政策課での事業が派生してインターネットでの若者が活動している。公民館での活動団体も指針に反映されていない印象。庁内の部署での縦割りが気になるところである。

(山川委員)

そもそも協働指針は活性化させるためのもの。この協働指針は誰に対するものなのか。一部の人にしか出回っていない印象である。

(杉崎会長)

和光市の協働に対して皆さんはどう思っているか捉えていることは大事である。

(山川委員)

市では協働事業が増えているということだが、金銭として多く発生しているのか。

(事務局)

全て含んだ内容である。事業数としては増えている。協働指針1 2 ページから1 3 ページを参考に年度ごと事業数をカウントしている。

(塚本委員)

金額なのか事業数なのか、『増えている』とは何ベースなのか。協働提案等減っているものがあるのなら『増えている』の文言は削除したほうが良いのではないか。

(杉崎会長)

1 4 ページ『①市民協働センターの設置』は大分前のことである。設置した後のことを記載すべきだが記載がない。センターがある中で協働が進んでいて設置したことはだい

ぶ前のはずである。設置されたことが評価されているのは時系列がおかしい。5年に一度協働指針の改定をした方が良いのではないか。前の見直しとの比較しなければならない。どういうスパンで見直すか。

(片山委員)

提案制度をなぜやめたか、代わりにどうするか、例えば場づくりをする等方向性を示した方が良い。そもそも辞めることも市民参加に通っていない。示さないと駄目ではないか。市のサポート方法を着地にすればいい。

(塚本委員)

二重線のまま文章が残るのであればわかるが、削除されると成果まで残されなくなってしまう。

(杉崎会長)

客観的に協働事業提案制度の評価、事業としては終わってしまった点を一枚くらい総括がないと先に進めない。どういう経緯で無くなったのか確認したい。

(事務局)

当初のうちは提案等複数あったものが年々減っていき、令和3年度では募集しても一切応募が無い状況だった。そのタイミングで市役所総点検が実施され、創設当初は提案制度がないと中々行政との協働ができなかったものが、現在だと各担当課で協働の意識が芽生えており、それぞれに必要な協働事業は各担当課で行うことが可能との見解である。

(杉崎会長)

今までは広い意味での協働の話をしていたが、協働提案制度は仕組み上の問題として縛りが多かった。市民側に立つと資金的な補助という一面があったが、担当課と一緒に組み、内容もその担当課に合うという条件のもとではないと対象の枠に入れない。協働提案制度により、協働提案が狭いもの、縛りのあるものに代わってしまった。また令和3年はコロナで応募がなかったのではないかと、ということも考えられる。良かったこともたくさんあったわけであるが、既に廃止された事業ではある。

(塚本委員)

市民活動推進課が窓口で担当課につないでいる印象である。市民活動推進課が、団体が行おうとしている内容がどの課とマッチングするか担当課につなぐ役だけでもやってくれれば多少助かるのではないかと。市民からのファーストコンタクトを受け、コーディネー

トを行う課である。各担当課に対しても市民活動推進課から、地域、市民と協働するメリットを説き、指針にも記載しておくが良い。

(片山委員)

担当課へのすり合わせを市民活動推進課にお願いしたい。縦割り行政があるため、市民活動推進課が窓口になると助かる。

(富岡委員)

実際市民活動推進課に協働のことで話をしに行った場合、市民活動推進課だけで行える事業は少ない。商工会なら産業課等、各担当課との間で協働が生まれることは自然なことであるため先程の協働提案制度廃止に関してはしっかりと理由となると考える。それを協働指針に記載した上で、市民の行いたいこと、挑戦したいことのファーストコンタクトを受ける場として市民活動推進課があり、つなぐ、ということを担当することを明記してはどうか。

(杉崎会長)

指針のため、課題があるから次の改定までに検討するといった項目と言って残すことは可能である。いずれにせよ協働提案制度について良かったこと、意義があったこと、庁内協働の文化が広がったこと、直接受け入れるようになったと認識している。しかし既につながっている人は良いが、これから事業を行う団体はどうつなぐかという役割は残っていたり、リソース、資源はどう提供するかということは検討していくと書いて行けば良いのではないかと。事業提案制度の評価や無くなったあと何が必要かを記載すべきだと明らかにってきた。協働事業数は増えた一方で協働提案制度はなくなってしまった、ということを2章に『協働提案制度の廃止』として記載することが大事である。

(富岡委員)

代案が現状無い状況で、代案として新しい形をどうするか、記載の必要がある。

(杉崎会長)

今回の協働指針改定の経緯は、第五次総合振興計画の内容の一部見直しのみの予定だったが、もっと大きな変化があったということが今回の議論で明らかになった。現在何年に一度指針を見直すという制度はなく、総合計画の変更ごとに変更する、または2年に一度変更する等決めておくというのも手である。

(富岡委員)

今まで一番お世話になったのは市民活動推進課である。現状不要ではないかという意見もあるかもしれないが、やりたいことがある市民がアイデアを形にして自発的に動いていくことが、結果地域活動につながるという中で、市民活動推進課は存在意義がある。6階の端ではなくもっと重要な場所にあっても良いのではないか。

(杉崎会長)

協働提案制度の総括をしながらそれをきっかけにして見える課題を次回は入れていく方向で進めていきたい。アンケートについてはそれぞれの立場を背負っていて、皆さんの意見をもらえる提案をいただくと幅が広がるのではないか。進め方について、対象者の提案も是非いただきたい。

(塚本委員)

現状市民活動団体へ対するアンケートであるが、間違いないか。

(山川委員)

何に反映するためのアンケートか。

(事務局)

協働指針に反映させるためである。またスペースの話が昨年度あがったため、本当に活動をされている方々がスペースを必要としているのかも併せて確認を行いたい。庁舎6階わこらぼの交流スペースについての質問も追加している。今後より使用いただくためにも意見を伺いたいため追加している。アンケート結果を受けて課題に対しても模索していきたい。

(杉崎会長)

質問する前から答えは明白で、不要な質問も含まれているように思う。例えば現在困っていることという質問は、会員や高齢化に困っているのではないかと創造でき、やっぱりといった結果になる。また『困っていない』という選択肢も必要ではないか。急いでアンケートを行う意味はない。

(塚本委員)

内容によるが、市民活動として市が求められているものを知りたい場合は個人に対し聞く内容も作成したほうが良いのではないか。

(片山委員)

これから市民活動団体をつくろうと考えている個人もいる。

□協働における活動スペースについて

(事務局)

協働における活動スペースについて、まずは第一歩として、既存施設の活かし方を考えていただきたい。事務局としては、市庁舎 6 階にある市民協働推進センターの交流スペースが現在活かしきれていないため、今後沢山の方に使用いただけるような空間にしたいと考えている。

(杉崎会長)

中々見つからない空き家に関して議論をしても具体的にならないため、具体的に何かをしたほうが良いのではないかと。土日、夜間使用できないということを変えることは難しいかもしれないが、6 階のスペースが積極的に活用されていないということ、管轄が市民活動推進課ということである程度自由に調整ができるということで、まずは議論していきたい。一方で市民の方がどこで実際活動をしているかや、どのような課題を持っているか、もう少し把握したほうが良い。活動している中で、実は場所はそこまで困っていない等、実際の意見を聞きたいと考えている。具体的な良い話があれば、空き家等も考えられるが手始めに 6 階のスペースについて意見を聞きたい。本日は頭出しである。

(山川委員)

旧保健センターはどうか。6 階は他の団体とブッキングすると邪魔になるかと考えてしまう。おしゃべりをしているわけにもいかない。物を置けるわけでもない。

(塚本委員)

打ち合わせのためだけに行く程良い場所ではない。2～3 人の 1 時間程度の打合せをするには良い。6 階まで上がっても使用できるかわからないため、せめて現在の空き状況がわかると良い。

(杉崎会長)

6 階の交流スペースに行かなくても済んでいるということか。どこで集まっているか。

(山川委員)

集まるのが厳しいため自宅でそれぞれ持ち帰り作業を行っている。または公民館で集まるタイミングに合わせ作業を実施している。

(片山委員)

公民館やわぴあで集まっている。わぴあは無料で自由に借りられ、飲食しながら打合せが可能のため都合が良い。時間帯によっては空いている。

(杉崎会長)

自治会は独自に会館があつたりするのか。

(加山委員)

各自治会に集会所があつたりもするが、自治会員以外でも使用したいという人は結構いる。コミュニティセンターは簡単に利用できる。活動場所は点在していて、気楽に使えるところがあると良い。コミュニティセンターを使用したいが使用できない、という声も聞く。スペースの問題としては潜在的に使用したいという人は結構いる。単に団体ではなく2～3人で簡単に利用できる施設があることは、コミュニケーションづくりにとってすごく大事である。

(杉崎会長)

予約して毎月定例会を行うようなものと、直前に数名で都合が合い打合せを行うという使用法のは使用の幅が大きい。

(加山委員)

コミュニティセンターも、予約が空いていれば開放する運用を現在ではしている。しかし知られていない。もう少し情報が広がれば公共施設も有効に活用できる。

(杉崎会長)

知っている人は使用しているということか。

(塚本委員)

6階は登録していなければ使用できないと皆思っているのではないか。ラミネーター等備品の貸し出しは他の所では少ないため、ウリではないか。

(片山委員)

空いているか、窓に緑、赤と表示したらどうか。

(山川委員)

少人数会議や事務作業には最適である。

(塚本委員)

パソコンやプリンターがあると良い。データを持っていき印刷できるところがない。

(片山委員)

コンビニエンスストアで代用している。

(山川委員)

簡単な文具が全て揃っていると使用しやすいのではないか。6階に行けば大体揃っている、となれば良い。

(杉崎会長)

コピー機、印刷場所はメリットがある。

(山川委員)

コロナ以前はコーヒーも飲めた。他の団体とも交流の機会が生まれていた。

(塚本委員)

そもそも6階は物が多く汚い。机の位置を変えたらもっと机が入るのではないか。もっとコワーキングスペースの雰囲気してほしい。模様替えしてはどうか。

(山川委員)

パソコンがあれば、パソコン弱者がパソコンに強い団体から教えてもらえたりつながりができるのではないか。

(片山委員)

一般の人が会議室を使用できれば良い。そういう制度があれば良い。

(杉崎会長)

どこがどういうふうに使われるか、活動をしている個々のノウハウ次第になっている。

(塚本委員)

市内で気軽に使用できる場所の一覧は現在ない。総合福祉会館にも誰でも使用できる飲食も可能なスペースがあるが、知られていない。誰でも使用できる、ということはあま

り積極的に発信しない印象。

(杉崎会長)

情報を発信する、というだけでもまずはスペースを活かせるのではないか。6階を使用したついでに窓口で相談をしていってもらえると良い。

(山川委員)

既に活動している団体はつながりがあることが多いため、新しい団体の窓口として積極的に担ってほしい。

(塚本委員)

窓口がどの課も同じ見栄えだから介護保険の相談と同じように話しかけるからノリが明るくない。そこだけ机や服が違ったりすると話しかけやすくなる。

(杉崎会長)

スペースと窓口の関係もある。スペースも綺麗になって、デスクも声を掛けやすいように明るい配色に、市役所の一部を使用している、というような棲み分けがあると良い。競争率が高くない少額な助成金を担当課が持っている、窓口に寄るきっかけにもなるため、課で持っているといい。

次回交流スペースについても議論できると良い。現場にて確認を行いたい。指針の見直し、協働提案事業を総括しながら真価を方針として記載、場所についてはまずは6階からスタートする。アンケートは市民活動をしている人が、どういう機能がなくて困っているかを確認していくこととする。年内あと二回会議があるが、今後調整していきたい。

アンケートは事務局で再度構成し、メールで委員へ送り、意見調整を行うこととする。意見を反映し、再調整をすることとする。内容は会長一任で宜しいか。

(漆間委員)

市民参加を担当しているため、協働は広い意味で重なってくることが多い。市民一人ひとりではなく団体の声を聴くことができ、参考になることが多かった。現在担当課にて市のLINE申請をしやすいと考えている。施設や会議室の空きをもう少し見やすくできるようにしていきたい。また証明書の発行ができるようになっているが、イベントの予約をLINEで気楽に行えるよう増やしていけると良い。何かできることを会議にて拾っていきたいと考える。LINEにてパブリックコメントの意見を拾うことが可能であり、個人宛であれば手間暇をかけずにアンケートをすることは可能である。

(塚本委員)

団体とは別に、市の LINE を使用し、まちに関心のある人へアンケートができると良い。

(杉崎会長)

団体の周りにいるコアな部分の声がわかると良い。統計機能も使用してみたら良いのではないか。

《 6 その他 》

(事務局)

今年度懇話会は第 2 回を 1 2 月、第 3 回を 2 月頃予定している。次回会議は 1 2 月 26 日 (月) 1 4 時～1 6 時、場所は和光市役所 6 階 6 0 3 会議室にて実施する。

以上